

こどものくにお おさらあらい



え Izumi Masashi
ぶん Kao Corporation

こどものくいの
おさらあらい

「ごちそうさま！」

おひるごはんの おわり。

れんくんと おとうさんと おかあさんは

げんきよく こえを あわせました。

「じぶんのおさらは じぶんで もってきてね。」

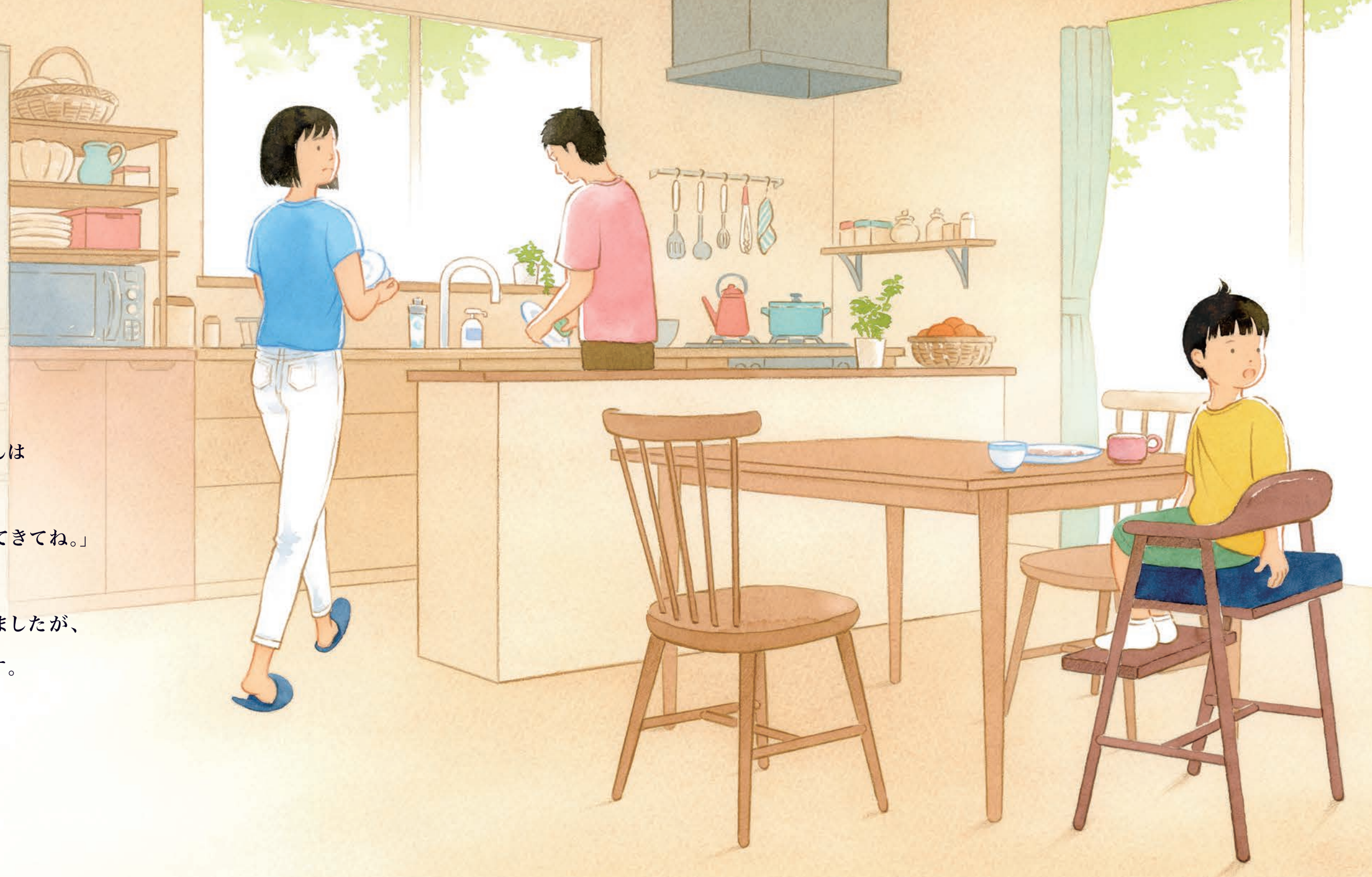
おかあさんが いいます。

「はい。」 れんくんは へんじをしましたが、

うわのそら。テレビに むちゅうです。

おかあさんは ためいきを ついて、

だいどころへ いってしまいました。



カチャカチャカチャ。

おさらを あらうおとに ふりかえると、

テーブルに のこっているのは れんくんの おさらだけ。

(どうせ おかあさんたちが あらうんだから、

ぼくのおさらも かたづけて くれればいいのに。)

れんくんが おもっていると とつぜん、

「いっしょに あそぼうよ！」 と こえが きこえました。

おどろいて ふりかえると…





そこには れんくんに

そっくりな おとこのこが たっていました。

「きみはだれ？」

「ぼくはコンタ。おさらあらいなんか

おとなにまかせて、こどものくにで あそぼうよ。」

「おとなに まかせて？」

れんくんは ワクワクしました。

「いきたい！」

れんくんが コンタのてを つかむと、

「そらきた！」

コンタは タンスの とびらをあけ、

れんくんを なかへと つれていきました。

タンスのなかを ぬけると、
そこは いろとりどりの おはながさく
おおきなひろばでした。
「ここが、こどものくにさ！」



ふたりは、きんいろのすなばで おしろをつくりました。

それから

とてもながい すべりだいを たくさんすべって、
びゅーんと かぜのように いきおいよく ブランコをこいで、
とびきり おいしいカレーを くちいっぱい ほおぼりました。



「ごちそうさま！」

「おさらは どこに かたづけるの？」

れんくんが きくと、 コンタは めを ぱちくりして いいました。

「かたづけなんて しないよ。それは おとなの しごとさ。」

コンタが ゆびさすほうを みると、

たくさんの おさらが こうじょうに はこばれていました。



こうじょうの なかでは、

おさらを せっせと あらっている おとなたちが いました。

「ひろいなあ。」

れんくんが きょろきょろと みていると、

せなかから ぴよんと はいいろのけが

はえている おとなのひとが いました。

と、おもった つぎの しゅんかん。

からだじゅうに けがはえて、

あっというまに すがたが かわってしまいました。

「なにいまの！」

「あらいもの ばかり してるから、

あらいグマに なったのさ。」 コンタが いいます。

「あらいグマ？」



れんくんの むねは とたんに ドキドキしてきました。
(おかあさんたちが ここにいたら、どうしよう…)



もういちど こうじょうのなかを よくみると、
「あ！」
こうじょうの すみで おさをあらう
おとうさんと おかあさんが いました。



「ふたりも あらいグマに なっちゃうの？」

「うん。そうだよ。」

「そんなの、やだよ！」

れんくんは さげびました。

「なんとか できないの？」

するとコンタは、

「ひとつだけ あるけど。」 と、そっけなく いいました。

「かんたんなことさ。

きみが おさらあらいを てつだえば いいのさ。」

「おさらあらいを？」



「そうさ。」

でも あらいグマに なったって いいじゃないか。

だって れんくんは おてつだい したくないでしょ？」

「でも…」

れんくんは ようふくの すそを ぎゅっと つかみました。

「おてつだいを したら もういっしょに あそべないよ。

だって おとなのなかまに なるって ことだからね。」

「ここで いっしょに あそんでいようよ。」



れんくんは むねがきゅっと しました。

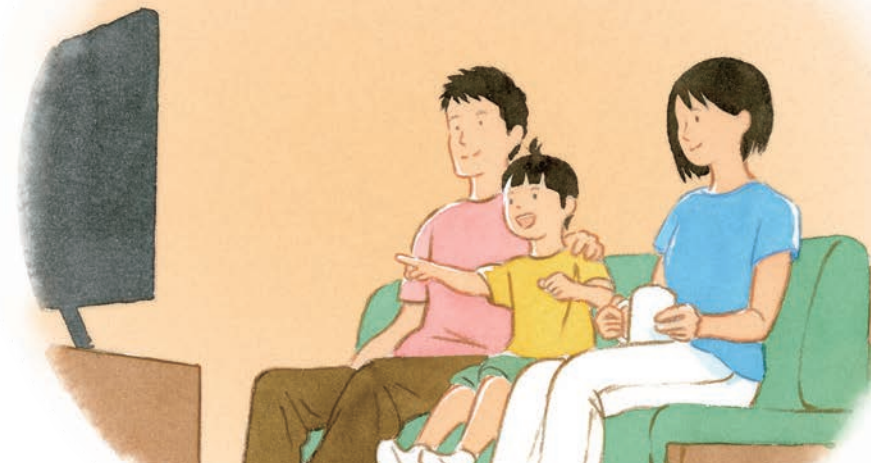
おかあさんたちが あらいグマに なってしまったら、

いっしょに おはなしをすることも、

テレビをみて わらうことも、

おおきなうでで だきしめてもらうことも、

できなくなって しまいます。





「ううん。ぼく、てつだってくる。

ここで あそべなくなるのは さみしいけれど、
おとうさん おかあさんと おはなしできなくなるのは
もっとさみしいもん。」

れんくんは コンタのてを ふりきって
こうじょうの とびらめがけて はしりだしました。

うしろから 「れんくーん！」 と、 よぶこえが きこえましたが
それでもふりかえらず まえへ まえへと はしります。

こうじょうの とびらを あけると、
れんくんは いつものリビングに たっていました。
テーブルには れんくんの おさがが のこっています。

カチャカチャカチャ。
おさらあらいの おとがします。
あわてて だいどころを のぞいてみると、
おさをあらう おとうさん おかあさんの せなかがみえました。
その せなかから ぴょん、と
はいいろの けが はえています。





「おとうさん！ おかあさん！」

「わあ、びっくりした。」

おとうさんが おどろいて ふりかえりました。

「おおきな こえを だして どうしたの？」

おかあさんも てをとめて いいます。

れんくんは おさを もって いいました。

「ぼくも いっしょに あらうよ。」

ぱちりと まばたきをした ふたりのかおが、

みるみる あかるくなりました。

「まあ、ほんとう？ たすかるなあ。」

「えらいぞ。ありがとう。」

そうして 3にんならんで

なかよく おさらあらいを しました。

だいぼうけんの おはなしをしながら たのしく。



こどものくにお おさらあらい

2025年8月25日 初版発行



絵	泉雅史
文	花王株式会社
発行	花王株式会社
	〒103-8210
	東京都中央区日本橋茅場町 1-14-10
印刷	株式会社オピカ
制作	キュキュット
デザイン	花王株式会社

